

教育学演習Ⅱ

科目ナンバリング SEM-302

必修 2単位

中山 京子

1. 授業の概要(ねらい)

教育学演習Ⅰを継続して、国際理解教育に関連するテーマを設定し、追究、発表を行う。最後に各自がプレゼンテーションを行うか小論文を作成し、研究成果をまとめる。テーマ例として、国・地域をとりあげた国際理解教育の教材開発、開発問題や人権問題をとりあげた国際理解教育の教材開発、日本の多文化社会と学校教育に関する諸問題の追究、教科書と国際理解教育などがあげられる。

2. 授業の到達目標

各自もしくは小グループで国際理解教育に関連するテーマを設定し、追究、発表することができる。
各自の問題意識にそって小論文を作成し、思考を表現することができる。

3. 成績評価の方法および基準

平常点(授業中に書くコメントカード、参加態度)30%、発表35%、テスト35%

4. 教科書・参考文献

教科書

日本国際理解教育学会 『国際理解教育ハンドブックーグローバル・シティズンシップを育むー』 明石書店

参考文献

日本国際理解教育学会 『現代国際理解教育事典』 明石書店

5. 準備学修の内容

各自のテーマに沿った追究活動、発表準備について、授業時間外の学習が多く求められる。

6. その他履修上の注意事項

主体的に参加し、自分の意見を発信し、協同して学習を深める姿勢を強くもとめる。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション
・本演習履修上の注意
・課題設定にむけての意見交換
- 【第2回】
・研究テーマの決定
・研究発表グループのメンバーを決める。
- 【第3回】 追究活動①
・個人またはグループでテーマについて研究を進める。授業時間外も含めて、文献の収集、フィールドワークに出て観察、インタビュー、調査等を行う。
*第2回～第6回では、学生が主体となる追究活動と平行して、毎回45分程度教員が学習を提供する。そこから国際理解教育の教材作りやプレゼンテーションの方法を学ぶ。
- 【第4回】 追究活動②
- 【第5回】 追究活動③
- 【第6回】 4年生の卒業研究の中間報告から学ぶ
- 【第7回】 追究活動の発表①
・各グループの研究発表をする。
・発表内容に関しての質疑応答、討論を行う。
・発表について各自コメントを記入する。
- 【第8回】 追究活動の発表②
- 【第9回】 追究活動の発表③
- 【第10回】 追究活動の発表④
- 【第11回】 ゲストティーチャーから学ぶ
グローバル社会と文化保持
- 【第12回】 ゲストティーチャーからの学びを整理する
- 【第13回】 国際理解教育のワークショップから学ぶ①
- 【第14回】 国際理解教育のワークショップから学ぶ②
- 【第15回】 まとめ